

第1回

Behavior, Energy & Climate Change Conference

BECC JAPAN 2014

主催 省エネルギー行動研究会 後援(予定) 経済産業省/国土交通省/環境省/(一般社団法人)日本エネルギー学会/(一般社団法人)エネルギー・資源学会

期間 2014年9月16日(火)・17日(水)

会場 16日 本会議
東京大学 伊藤国際学術研究センター
伊藤謝恩ホール・多目的スペース

17日 エクスカーション
磯子スマートハウス

定員(予定) 9月16日 ▶ 200名
9月17日 ▶ 40名 (午前・午後 各20名、抽選)

参加費
一般 : 20,000円
教育・研究機関 : 15,000円
学生 : 5,000円
交流会 : 6,000円

申込方法

ホームページ/BECC JAPAN 2014/
参加登録欄から、必ずお申し込みください。

<http://www.seeb.jp>

※当日の参加申込は受け付けられませんので、ご注意ください。
※申込手続きが完了すると、登録されたメールアドレスに
メールが送信されます。

申込締切

2014年9月5日(金)

※電話・FAX・E-mailでの申込受付は行っておりません。

プログラム

9月16日

一般講演(招待) 9:50~15:10

- セッション1 「欧米の省エネルギー行動変容事例報告」
- セッション2 「省エネルギー行動変容と教育取り組み事例」
- セッション3 「行動経済学から考える省エネルギー行動」
- セッション4 「エネルギーの見える化と省エネルギー行動」
- セッション5 「省エネルギー行動変容とその効果の検証」
- セッション6 「社会心理学的アプローチによる省エネルギーへの行動変容」

基調講演I 15:30~16:30

"Why energy is a social good and what this means for 'energy savings' research and policy agendas"

オスロ大学 文化人類学部
ハロルド・ウィルハイト 教授

基調講演II 16:30~17:30

"Behavior, Energy, and Climate Change :
An Emerging Field of Action-Oriented Scholarship"

スタンフォード大学 プレコート・エネルギー効率センター
マーガレット・テイラー 博士

9月17日

施設見学会 (午前10:00~12:30・午後13:00~15:30)

磯子スマートハウス視察(東京ガス)(神奈川県横浜市磯子区)
住戸間で熱・電気を融通する集合住宅版スマートハウス実証

お問い合わせ先 **省エネルギー行動研究会事務局** (株式会社 住環境計画研究所 内)

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-29 紀尾井町アークビル3F TEL.03-3234-1177 FAX.03-3234-2226 E-mail: info@seeb.jp

一般講演（招待）・プログラム詳細（予定）

セッション1：欧米の省エネルギー行動変容事例報告（ファシリテータ：東京大学大学院工学系研究科 准教授 前真之）	
1-1	米国の省エネ行動実証事例の紹介および国内展開における課題 ○前真之（東京大学）、川島範久（東京工業大学）
1-2	Variation in residential energy use among Americans：Statistics, Causes and Case Studies ○Sarah Outcalt（Western Cooling Efficiency Center, University of California, Davis）
1-3	Lessons from Opower’s behavior change programmes in the US and Europe ○Ken Haig（Opower）
セッション2：省エネルギー行動変容と教育取り組み事例（ファシリテータ：横浜国立大学教育人間科学部 教授 松葉口玲子）	
2-1	欧米における省エネ教育の動向 ○山下宏文（京都教育大学）
2-2	家庭科における省エネ教育の動向と課題 ○工藤由貴子（横浜国立大学）
2-3	食教育における省エネ行動変容効果と評価法の検討 ○三神彩子（東京ガス）、長尾慶子、久松裕子（東京家政大学）、赤石記子（帝京平成大学）
セッション3：行動経済学から考える省エネルギー行動（ファシリテータ：一橋大学大学院経済学研究科 准教授 竹内幹）	
3-1	Why does real-time information reduce energy consumption? ○樽井礼（ハワイ大学）
3-2	節電要請・変動料金と節電行動：けいはんなにおける社会実験 ○依田高典（京都大学）
3-3	技術、エネルギー、気候変動：家庭データからの行動分析 ○馬奈木俊介（東北大学）
セッション4：エネルギーの見える化と省エネルギー行動（ファシリテータ：住環境計画研究所 研究所長 鶴崎敬大）	
4-1	家庭向けデマンドレスポンス実証実験「1kwLove」の結果とその効果について ○谷口裕昭（NTTスマイルエナジー）
4-2	家庭ユーザーにとって省エネは“おまけ”でいい～機器分離技術を用いた新しいエネルギー情報システム普及促進～ ○只野太郎（インフォメティス）
4-3	スマートエネルギーハウス居住実験における省エネ行動について～省エネ行動とHEMSの関わりからの評価結果～ ○石井幹也（大阪ガス）
セッション5：省エネルギー行動変容とその効果の検証（ファシリテータ：東京都市大学都市生活学部 学部長 坊垣和明）	
5-1	既存研究から見た省エネ行動とその効果の分析および実証サイトの紹介 ○坊垣和明（東京都市大学）
5-2	高性能住宅におけるHEMSと省エネ行動の効果 ○須永修通（首都大学東京）、畑泰彦（積水化学工業）、小野寺宏子、遠藤裕太、川上裕司（首都大学東京）
5-3	温熱環境の知覚、体温調節行動と省エネルギー ○松原斎樹（京都府立大学）
5-4	省エネルギー・節電促進策としての“ナッジ”とマンションでの実証 ○西尾健一郎（電力中央研究所）
セッション6：社会心理学的アプローチによる省エネルギーへの行動変容（ファシリテータ：慶應義塾大学文学部 准教授 杉浦淳吉）	
6-1	行動変容への説得的コミュニケーションと行動によるコミットメント ○杉浦淳吉（慶應義塾大学）
6-2	周りの人がするなら自分も？—規範・観察が環境配慮行動に与える影響 ○安藤香織（奈良女子大学）
6-3	旭川エネエコプロジェクトにおける省エネ行動とその動機の変容：減衰型ポイント制度に関する社会心理学的視点からの提案 ○大沼進（北海道大学大学院）
6-4	日本低炭素社会実現に向けた生活者行動変容に関する分析： 環境省中長期ロードマップコミュニケーション・マーケティングWGの議論を参考に ○藤野純一（国立環境研究所）